

「日本水産学会誌」投稿前チェックリスト

《フォーマットについて》

<input type="checkbox"/>	用紙サイズ:	A4 縦長
<input type="checkbox"/>	余白:	上下左右 各 2 cm 以上
<input type="checkbox"/>	文字:	横書き 35 字×25 行/頁 (MS Word 段落 行間設定『2 行』に相当)
<input type="checkbox"/>	文字サイズ:	10-12 ポイント
<input type="checkbox"/>	ページ番号:	ページ下中央 (全ページ)
<input type="checkbox"/>	行番号:	通し番号 (図表以外)

《原稿種別条件》該当する原稿種別の条件を満たしていますか？

<input type="checkbox"/>	論文:	それ自身で完結したオリジナルな研究報告。
<input type="checkbox"/>	短報:	論文としてはまとまらないが、限られた部分に関する重要な発見や新しい実験方法などを発表するもの。分量は刷り上がりのページ数で 3 ページ以下 (1 ページあたり 2000 字, 図表は 300 字程度として計算)。
<input type="checkbox"/>	総説:	水産学関連分野のトピックを総説するもの。(編集委員会からの依頼にもとづくもの, または投稿総説も可)。

《ページ構成》

- 表紙ページ (P. 1): タイトル, ランニングタイトル, 著者名, 所属, 英文タイトル, 英文著者名, 英文所属および所在地
- | | | |
|--------------------------|---|---|
| <input type="checkbox"/> | タイトル: | 研究の目的や内容を端的に表現したものであること。「〇〇の研究 1」のような番号付きのタイトルは認めない。 |
| <input type="checkbox"/> | ランニングタイトル: | 20 字以内の短縮題名 |
| <input type="checkbox"/> | 著者名: | 連名の場合は「,」で連ねる。 |
| <input type="checkbox"/> | 著者名および著者の順番は原則として変更しない。変更する場合は, 正当な理由と著者全員の同意書名を書面で編集委員長宛に提出すること。 | |
| <input type="checkbox"/> | 責任著者: | 「*」を上付きで指定し, 電話番号, FAX 番号, Email アドレスを記入する。 |
| <input type="checkbox"/> | 英文著者名: | 大文字で記載し, 名前 (first name) は, 頭文字以外をスモールキャピタルとする。また, 英文では最後の名前の前に「AND」を入れる。 |
| <input type="checkbox"/> | 所属および所在地: | 著者所属機関名を正式な和文および英文名称で記載する。共著者の所属が異なる場合は, 各著者名に上付き数字を付けて対応させる。現所属あるいは日本学術振興会特別研究員等の記載の必要な場合は, 著者名に上付きアルファベット小文字を付けて対応させる。所在地については「市区町村名」, 「都道府県名と郵便番号」, 「国名」までを英文イタリックで記載する。なお, 複数の著者の所属が同一国で連続する場合は, 最後の所属のみに「国名」を記載する。 |
- 和文要旨 (P. 2): タイトル, 著者名, 所属 (略記), 要旨, キーワード
- | | | |
|--------------------------|----------|--|
| <input type="checkbox"/> | 和文要旨: | 研究の目的, 方法および結果をスペースを含めて 250 字以内で簡潔明瞭にまとめる。タイトル, 著者名, 所属 (略記) は文字数に含めない。 |
| <input type="checkbox"/> | 所属機関の略記: | 各巻 3 号会報もしくは学会ホームページ内の「日本水産学会が用いる機関名の略記」を参照のこと。
http://www.miyagi.kopas.co.jp/JSFS/PUBS/KITEI/write.html |
| <input type="checkbox"/> | キーワード: | 和文要旨の下に記載する。原稿の内容と密接に関連した一般的な表現で, 3 から 8 個を指定する。英訳版は不要。また, 数字, ギリシャ文字, アルファベット, アイウエオの順で記載する。 |
- 英文要旨 (P. 3): 短報については英文要旨を必要としない。
- | | |
|--------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> | 和文要旨に即して, 12 pt の Times 系のフォントを用い, 200 words 以内で記載。 |
|--------------------------|---|
- P. 4 以降 (本文, 引用文献, 図説明)
- | | | |
|--------------------------|--------|---|
| <input type="checkbox"/> | 総説・論文: | 緒言, 材料と方法, 結果, 考察 (, 謝辞), 文献, 図説明 (表の説明はリスト化不要, 該当する Table と一緒にページに記述する。) |
|--------------------------|--------|---|

□	短報：	本文（見出しなし）、謝辞、引用文献、図説明。表の説明は総説・論文と同様
□	各見出しは中央に太字で記載する。ただし、緒言の見出しは付けない。	
□	小見出しは太字とし、番号は付けず、本文は追い込みにする。さらに細分した見出しが必要な場合には番号（1., 2., …）を付け、太字にはしない。本文の追い込みもなし。	

● 図および表、電子付録

□	図表：	一点ずつ別葉にして作成する。
□	図表：	図表中の文字ラベルと凡例、図表の説明は英語で記載する。図の説明はリストにして、テキスト原稿末尾（文献リスト）の後に付ける。
□	図表：	本文中には、「Fig. 1」, 「Table 1」, 「Figs. 1, 2」, 「Fig. 1a, b」, 「Fig. 1a-c」として引用する。a, b, c, …のラベルは小文字にすること。
□	図表：	挿入位置を本文原稿の右の余白に赤で指定する。
□	表：	罫線は最小限に留め、縦の罫線は用いない。
□	表：	表の上部に簡潔な表題を一文で付け、末尾にはピリオドを付さない。さらに説明が必要な場合は、表の下部に脚注として記載する。
□	図：	用紙の左隅に図番号（Fig. 1, Fig. 2, …）を記入する。図の表題および説明は別葉にリストを作る。図の表題および説明は改行しない。
□	図：	刷り上がりの図の横幅は、8 cm（片段）または17 cm（両段）となるので、必要なら指定する。図中文字の刷り上がりの大きさは最小でも2 mm程度になるように考慮する。写真はコントラストのはっきりとしたものを使用する。
□	電子付録：	報文に関連する動画や音声、掲載できなかったデータ・図・表を、オンライン上のみで公開する（形式はMPEG, MOV, AVI, WMV, MP2, MP3, WAV, PDF, DOC, XLS等）。ファイルサイズは大きすぎないこと（10 MB程度まで）。 本文中には、「電子付録 video_1」, 「電子付録（appendix_1）」などとして引用する。

● 文献

□	本文の関連箇所に引用の順に上付きで一連番号を付ける。句読点の箇所に引用番号を付ける場合は句読点の後ろに置く。
□	著者が複数で、2名の場合は姓を連記し（例：山田, 田中 ⁶⁾ あるいはBrown and Smith ⁷⁾ ）、3名以上の場合は筆頭著者の姓に「ら」または「et al.」を付して記載（例：鈴木ら ⁸⁾ またはSato et al. ⁹⁾ ）する。
□	投稿中の論文は引用しない。
□	修士論文、学会講演要旨集は論文未発表のものとして引用文献とせず、文中に（未発表）として記載する。
□	ソフトウェアプログラム、オンラインデータベース、新聞、インターネット上で公開されている記事は引用文献とせず、本文中に出典を括弧書きで記載する。

● 引用文献リスト： 本文で用いた一連番号順に記載する。短報においても論文同様のスタイルで記載。

□	英文の引用文献の著者名は、姓のあとに名前前のイニシャルを付けるが、姓の後のカンマやイニシャルの省略形ピリオド、および連名の「and」は省略する。	
□	英語以外の外国語で書かれた文献については、英訳された題名をつける。英訳タイトルが無い場合、著者が英語へ翻訳する。そして、(in Russian), (in Greek) の要領でオリジナルの言語が分かるように記載する。なお、英文要旨がある場合は、(in Greek with English abstract) のように記載する。”	
□	外国語雑誌名の略記法は、Chemical Abstracts Service (CAS) および BIOSIS Serial Sources に準拠するものとし、イタリック体で記載する。省略名を持たない和文雑誌等は雑誌名を略さない。	
□	論文：	著者. タイトル. 雑誌名 年；巻：ページ.
□	単行書：	著者. 書籍名 出版社, 出版地. 年. (英文書籍名はイタリック体で記載する)
□	単行書の中の章：	著者. 章名. 書籍名* 編者* 出版社, 出版地. 年；ページ. (*英文の場合は逆)
□	“報告書 (巻号のないもの)：	著者. タイトル. 書名, 出版者, 出版地. 年；ページ. *著者が不明な場合、または複数年にわたる統計資料等を引用する場合は、「原稿の書き方」の例9, 10, 12に従う。”
□	学位論文：	著者. 論文名. 博士論文, 学位授与と機構（大学）名, 所在地. 年.
□	特許：	発明者. 発明の名称. 公開特許公報または特許公報の番号, 年. *引用には特許出願公開番号（特開）または特許番号（特許）を取得したもののみ可能とする。出願番号（特願）は引用文献とはしない。

● インターネット上の公開データベース等の引用

- 本文中に括弧書きで URL, 直近の閲覧日等を記述する。表記については, 引用したサイトが指定している表記法に従う。
例: (SDBSWeb: <http://riodb01.ibase.aist.go.jp/sdbs/>, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, 2008年4月17日)

《その他, 表記ルールなど》

● 用語

- 原則として「学術用語集（動物学編, 植物学編, 化学編, 農学編など）」（文部省）および「新・英和英水産学用語辞典」あるいは「Web版 新・英和英水産学用語辞典 (<http://www.jsfs.jp/d-dic/>)」（日本水産学会編, 恒星社厚生閣, 2017）に準拠する。
- 生物名は標準和名をカタカナで書き, 続けて学名をカンマやカッコを付けずにイタリックで入れる。「いわし旋網」, 「かつお節」などの場合にはカタカナを用いない。
英文要旨中では, 生物名の次に学名を入れる。
微生物名などはそのまま学名を用いる。
原則として命名者を省く。また属名や種名を最初から略記してはならない。
本文中で学名の表示を必要以上に重複させることは避ける。
図表中の学名は略さない。
- 化学名は慣例に従って漢字もしくはカタカナで記載し, 原語を用いる必要のあるときは小文字で書く。化合物の略語は国際慣用に従い, 必要なときは, 本文中でその旨を注記する。
外国語は原則としてカタカナ書きとする。
原語を用いる場合, 人名, 地名, ドイツ語の名詞, 固有の商品名などを除き, 小文字で記載する。
同一報文中で同一物名について和洋語を混用してはならない。
英文中の日本語は, ローマ字表記でイタリックとする。

● 遺伝子座

- 遺伝子および遺伝子座の命名は, Gene Nomenclature for Protein-Coding Loci in Fish (Shaklee JB et al. Trans. Am. Fish. Soc. 1990; 119: 2-5) に準拠する。

● 酵素

- 酵素名は, 本文中の必要な箇所に酵素番号および系統名あるいは常用名を記述する。
酵素番号および系統名は, 国際生化学連合 (International Union of Biochemistry and Molecular Biology, IUBMB) の酵素委員会 (Enzyme Commission) によって分類された “Enzyme nomenclature 1992” (Academic Press) に準拠する。
ATPase のように基質が省略されている場合を除いて酵素の名前を省略しない。

● 核酸塩基配列

- 新規の核酸塩基配列およびアミノ酸配列データは GenBank, EMBL あるいは DDBJ 等のデータバンクに登録すること。本文中に accession number を表記する際には, 論文の場合は材料と方法の最後に, 短報の場合は本文の最後に表記すること。

● 物理量とその記号

- 物理量の名称や量記号等はできるだけ国際純正・応用化学連合 (International Union of Pure and Applied Chemistry, IUPAC) の勧告*1,2に従う。物理量の記号はイタリック体 (斜体) で記載する。添字はそれ自身が物理量を表すときはイタリック体とし, そうでない場合にはローマン体 (立体) で記載する。”

*1 “Quantities, Units, and Symbols in Physical Chemistry. 3rd edition”, Royal Society of Chemistry, Cambridge, 2007.”

*2 「物理化学で用いられる量・単位・記号」日本化学会標準化専門委員会監修. 講談社, 東京, 1991.

● 単位

- 単位の記載においては, 国際単位系*3 (SI) を尊重する。
- 略記するものについては複数でも s を付けない。
- 複数の単位の積で表される組立単位は, 各単位を積の記号「・」で結びつけて表す (誤解する恐れが無ければ積記号は省略してもよい)。
- 複数の単位の商で表される組立単位は, 各単位を商の記号「/」あるいは負の指数を付けて表す。負の指数が付く単位が複数ある場合に商記号を用いて表す際はそれらのカッコの内に入れる。

*3 “Le Systeme International d’Unites. 8e edition” BIPM. 2006.

(日本語訳:「国際文書第8版 国際単位系(SI)日本語版」日本規格協会, 東京, 2007.)

● 文字指定

- x, y, n (個体数など) などの変数, α , β などのパラメータ, p, r, U-test, t-test などの統計量はイタリック指定とする。
- 化学関係の記号はイタリック体とローマン体を区別する。
イタリックとするもの : o-, m-, p-, N-, O-, S-, n-, d-, l-, prim-, sec-, tert-, cis-, trans-
ローマンとするもの : pH, Rf, Cl-, bis-, iso-, homo-

《図, 表などの他からの引用について》

- 他から図や表を引用する際には, あらかじめ原著者および著作権所有者の了解を得ておく。